

沼田城跡の五調査成果

沼田城跡の本質的価値

史跡が持つ、土地に根差した歴史上または学術上の価値のことを「史跡の本質的価値」と呼びます。建物跡、石垣、地下に埋蔵されている物や痕跡、それらによって形作られる空間により、その価値は生み出されます。

前回まで、沼田城跡の調査成果を11項目にわたりご紹介しました。その調査成果を踏まえると、「沼田城跡の本質的価値」を次のように整理することができます。

1 地勢上の要衝に位置する

戦国時代、沼田城は、上杉氏・北条氏・武田氏によって争奪が繰り返されました。豊臣政権による全国統一のきっかけとなった歴史的事件「名胡桃城事件」に深く関わり、戦国時代末期から江戸時代初期にかけては真田氏が治める沼田藩の中心としての役割を果たしました。

沼田城は、争奪が行われる度に手が加えられ、真田氏だけでも三期にわたる大規模な整備を行いました。そのため、沼田城跡には複雑な普請の歴史と痕跡が見られます。幾度となく行われた争奪と整備の歴史が、沼田城の地勢上の価値の高さを物語っています。

2 近世城郭の姿がよく残されている

本丸跡の発掘調査で複数の整地面が確認され、天守台や天守に係ると考えられる情報が得られました。グラウンドでは二の丸付近の堀跡が明確に捉えられ、市街地にも大規模な堀跡が姿を留めています。

沼田城は地下に良好な状態で保存されており、近世城郭としての姿が現在の市街地にもよく保存されています。また、「正保城絵図」をはじめ数多くの城絵図が残されています。

3 破城遺構・文献史料・絵図を相互比較して研究できる

本丸堀跡の発掘調査で、破城の実態や過程を示す遺構が確認されました。沼田城の破城については、その様子や工程などを記録した「沼田城破却記」、破城の際の指示が描かれた絵図「中根家所蔵 上州沼田城図」があり、発掘調査成果と文献史料・絵図を相互に比較研究することができます。希少な存在です。



上空から見た沼田城本丸跡 背後の山並みは三国山系（令和2年5月撮影）